

姥屋敷自治会

5つの公民館区で活動

姥屋敷自治会には5つの公民館があり、それぞれの公民館区で独自の活動を行っている。芋の子会や小旅行と合わせた子どもたちのための研修などを開催するところもある。自治会では各公民館区の活動を支援するため、助成金を支給している。自治会全体で開かれる夏祭りの時には各公民館区に役割が振られ、屋台や餅まきなどを分担して行っている。

また、助成金は子ども会、育成会、消防団等の自治会内の各団体と各公民館にも人数割りで決めた額を配当している。近年消防団には大学生など若い世代の参加が増え、今後さらなる活発化が期待される。

夏祭り



お祭り広場で行われた夏祭り

盆の14日に行われる夏祭りは帰省する人が参加しやすいように、毎年同じ日に開催している。祭りと一緒に敬老会も行うため、老若男女が集まりやすい工夫もされている。また、農家の忙しい秋にかぶらないこともあり、自治会員の参加率は高い。当日は屋台が並び、雑技団の披露や餅まきなどの企画で盛り上がる。20時から打ち上げ花火も上げられ、日中から夜まで笑顔の絶えない1日となる。

学校行事に大人も参加

大運動会や文化祭等、学校行事を地域の行事とし、大人も参加することで、地域の重要な世代間交流の場となっている。文化祭では、作品の出展やPTAによる演劇などが披露される。特にPTAの演劇は昔からの伝統であり、地域の大人たちは仕事の合間を縫って練習に励む。劇の内容は姥屋敷地区の開拓の歴史を題材にすることもあれば、役員自ら脚本を作ることもあり、子どもたちの毎年の楽しみの一つとなっている。

姥屋敷マイロード事業



マイロード事業

自治会の大きな事業として、まちづくり委員会で、二期にわたる道路拡幅工事に取り組んできた。住民が頻繁に使う道路が狭く見通しも悪く、子ども達も危険な目に遭ってきたことから事業化。地権者交渉から山の切り崩しまですべて地域住民が主体となって行った。平成15年から第一期の工事が着手され、さらに平成29年から第二期の工事が行われた。



左から鎌田康嗣氏(事務局長)、太田豊氏(自治会長)、佐久間康徳氏(前自治会長)、取材時撮影